



(報告事項)

# 平成27年度（2015年度） 事業報告書

自 平成27年4月 1日

至 平成28年3月31日



一般社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会

# 平成27年度（2015年度） 事業報告書

## 目次

### I. 2015年度の総括

### II. 各委員会の活動報告

1. 綱領委員会
2. 法務委員会
3. ISO20252 認証協議会
4. 公的統計基盤整備委員会
5. 出版委員会
6. 研修委員会
7. カンファレンス委員会
8. 調査技術研究委員会
9. 国際委員会
10. 人材マネジメント委員会
11. プライバシーマーク審査会

### III. 事務局の活動報告

1. 協会の会務
2. 他団体との活動
3. 定例活動

## I. 2015年度の総括

2015年度は基本方針を

「リサーチの新たなパラダイム創造を目指して」

とし、以下の重点課題に取り組んだ。重点課題について、平成27年度（2015年度）の活動総括を行う。

### 重点課題

1. 協会創立40周年イヤーとしての活動の推進
2. 業界団体としての関連法制への対応
3. 委員会活動の推進と連携
4. 次代を背負うリサーチャーの育成をサポート
5. 産業復興のための関係諸官庁との関係強化

#### 1. 協会創立40周年イヤーとしての活動の推進

協会創立40周年を記念したカンファレンスを開催し、40年の沿革と歴代会長と役員を掲載した記念ボードを会場に設置した。また、40周年記念品を来場者に配布し、前三役、現三役による鏡開きを行った。さらに出版委員会と協業し、これからのリサーチャー像に関するコンテンツを発表した。同時に40周年記念誌を作成し、発刊した。

#### 2. 業界団体としての関連法制への対応

マイナンバー法の適用、個人情報保護法改正を考慮して、関連情報を入手し適宜会員社へ案内を行った。法務委員会では、業界内に向けた資料の作成を行った。

#### 3. 委員会活動の推進と連携

カンファレンス委員会、出版委員会、国際委員会が連携し、40周年を記念したコンテンツの発表と、グローバル対応に向けたコンテンツをカンファレンスで発表した。さらに綱領委員会、法務委員会、プライバシーマーク審査部の連携により、コンプライアンス対応における変化を記念誌に盛り込んだ。

#### 4. 次代を背負うリサーチャーの育成をサポート

次代を担う若手リサーチャーによりよい刺激となる為に、カンファレンスでは業界内外の新しい取り組みをコンテンツとして揃え、機関誌においては、マーケティング・

リサーチに関連する最新の社会動向を掲載した。また、国際若手フォーラムでは、話題の講師の話の聞きながら業界内外の横のつながりを作り、情報交換できる場を提供した。

## 5. 産業復興のための関係諸官庁との関係強化

管轄官庁である経済産業省や、関連官庁である総務省、中小企業庁との関係強化に努め、リサーチ業界の実情理解の為の説明や、政策反映などに対して働きかけた。

## II. 各委員会の活動報告

### 1. 綱領委員会

リサーチ業界を取り巻く環境変化、個人情報保護法改正の動き、各国の動向などを把握しつつ、マーケティング・リサーチ綱領のあるべき姿について議論を行った。

また、2014年度に実施した綱領に関するアンケートのとりまとめを行い、実務上の疑問や不都合について、「マーケティング・リサーチ綱領 追加 Q&A」としてJMRAホームページに掲載した。

その他、JMRA40周年のカンファレンスと連動して、賛助会員拡大キャンペーンを実施した。

### 2. 法務委員会

社会の変化に伴うリサーチ業界を取り巻く環境変化を踏まえ、マーケティング・リサーチを実施する上で注意すべき法的な課題について、議論・検討を行い、会員社に向けて情報発信を行った。具体的事項は次のとおりである。

#### (1) 法務ハンドブックⅣの検討

法務ハンドブックⅢと増補版の項目と内容を再検討し、さらに追加すべき事項も議論して、法務ハンドブックⅣの作成を進めた。

(2) マーケティング・リサーチ産業個人情報保護ガイドラインの解説部分についての見直し作業に着手した。

#### (3) CLT調査における「道路使用許可証」対策

状況把握と警察署、区役所、会場へのアプローチを行い、問題の抽出と改善策の提案を、会員各社及び賛助会員へ行った。

(4) 以前から懸案事項であった、ウェブモニターの名寄せ行為について、法務委員会の所見を各社に通知した。

(5) 無料法律相談の実施

協会顧問弁護士による無料法律相談を月に1度実施した。

(6) 法務セミナーの実施

マイナンバー制度について一般社団法人日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）の坂下哲也様にご講演いただいた。

### 3. ISO20252 認証協議会

日本のリサーチ業界の代表として、マーケティング・リサーチに関わる技術の向上および普及を目的とした ISO20252 第三者認証制度の普及活動を行った。

(1) 国際会議への参加と準備会での議論

ISO/TC225 (225 番目の Technical Committee) 内に設置された WG3 (3 番目の Working Group) に参画し、Web Analyses に関する新国際規格制定の検討を行った。2015 年末時点で DIS (Draft International Standard : 第一次国際投票に付すドラフト) の段階まで進んでおり、順調に行けば 2017 年の遅くない時期に発行される見通しである。

JMRA は日本を代表して TC225 のメンバーとなっており、ISO20252 認証協議会の準備会では、情報収集と日本の意向を反映させるため、経済産業省、日本規格協会等と情報交換を行いつつ、国際会議に専門委員を派遣し、ドラフトの内容検討と意見表明を行った。

(2) ISO26362 の認証スキーム整備に着手

ISO/TC225 において、ISO20252 の次期改定時（2017 年度の見込み）に、ISO26362（アクセスパネル）を「ISO20252 : Part2」として組み込むことが決定された。これを受けて、日本でも ISO26362 の認証スキームを整備する検討に入った。

(3) 公的統計基盤整備委員会との連携と官庁との情報交換

公的統計における民間活用の基盤整備を目的とする公的統計基盤整備委員会と連携し、官庁に対して意見交換会などの場で ISO20252 の有用性をアピールするとともに、公的統計における「プロセス保証」担保に関する情報提供を行った。

(4) ISO/TC225 国内委員会と運営を分離

従来、ISO20252 の認証スキームオーナーとしての協議会の活動と、経済産業省および JIS（日本工業標準調査会）から国内審議団体として委嘱を受けた ISO/TC225 国内委員会の活動とは、明確には区分されていなかった。経済産業省からの指導もあり、両者の運営規程を再整備するとともに、組織体として分離した運営を徹底させることとした。上記報告内容のうち、(1) が ISO/TC225 国内委員会としての活動に該当する。

そのため、本協議会は2016年度以降、「マーケティング・リサーチ規格認証協議会（英文名：Japan Certification Council for Marketing Research (JCCMR)）」に名称変更を行う予定である。

#### 4. 公的統計基盤整備委員会

##### 1) 委員会活動

・全体会議：第1回目を2015年7月24日（金）に開催し、その後2016年5月まで計10回開催した。事務局、各小委員会及び関連団体・学会等の活動報告を行い討議した。また学識者・府省の担当者等を講師に招き、各府省での公的統計に関する事業及び公的統計の制度と品質に関する動向等の講演、意見交換会を開催した。

・幹事会：6月に第1回を開催し、都合11回行った。原則全体会議の前に開催して、各小委員会の活動方針、各府省とのコンタクト・意見交換、報告書構成案の検討を行った。

・小委員会：具体的な課題についての研究及び検討を行った。

##### ①市場動向分析小委員会

会員各社のインフラ状況等動向調査と公的統計の民間委託実態調査を行った。

##### ②ガイドライン推進小委員会

各省庁等の公的統計調査から事例を選択し、その仕様書と民間委託ガイドラインの差異について検証した。

##### ③資格制度検討小委員会

統計調査士・専門統計調査士受験対策講座2期目を開催した。

##### 2) 活動詳細

##### ①関係各府省統計主管トップへの表敬訪問

総務省、内閣府、経済産業省、厚生労働省、農林水産省他

##### ②内閣府公共サービス改革推進室官民入札等監理委員会との意見交換会

##### ③講演会の企画実施（計4回）

経済産業省統計情報システム室、統計局統計情報システム課、総務省政策統括官付、日本大学川崎教授

④「統計の品質保証及び民間事業者の活用に関するワーキンググループ（総務省主催）」との意見交換を実施。

##### ⑤『公的統計市場に関する年次レポート2015』発刊

##### ⑥日本統計学会・統計検定センターとの協働活動（資格認定検定試験）

##### ⑦統計調査士・専門統計調査士受験対策講座2期目

##### ⑧内閣府統計委員会への傍聴

##### ⑨「調査インフラ等に関する実態調査」の企画・実施及び2015年度民間調査機関を活

用した統計調査一覧作成

⑩「統計調査における民間事業者の活用に係るガイドライン（総務省）」「実施要項作成時における競争性改善上のチェックポイント（内閣府）」に沿った公的統計仕様書分析

⑪JMRA ホームページに「公的統計基盤整備委員会」の活動報告及び各府省との連携についてアップ

⑫『マーケティング・リサーチャー』128号に、統計調査士・専門統計調査士資格試験の現況分析等を掲載

## 5. 出版委員会

(1)『マーケティング・リサーチャー』の発行

調査機関と調査ユーザーとのパートナーシップをはかり、マーケティング・リサーチの役割や意義を高めていくことをミッションとしながら、MRをめぐる「上質な」情報を盛り込んだ専門性のある業界誌として No.127～129 を発行した。

《No.127》 2015年7月15日発行（2,000部発行）

特集：ビッグデータ時代の航海術

市場を語る・市場は語る（Interview）：

多様化で拓く、ビール市場の未来

アサヒビール株式会社 古澤 毅氏

《No.128》 2015年10月30日発行（2,000部発行）

特集：共存をデザインする～多様性を認めあう社会のマーケティング～

市場を語る・市場は語る（Interview）：

掃除機と心が通う？～家電と人の新たな関係をめざして～

シャープ株式会社 阪本 実雄氏

《No.129》 2016年3月25日発行（2,000部発行）

特集：イマドキの共感

市場を語る・市場は語る（Interview）：

運命の1曲と出会う～リコメンドで音楽をもっと面白く～

AWA株式会社 小野 哲太郎氏

上記のほか、常設コンテンツとして、2013年度より、各号に以下の記事を掲載した。

「ちょっと教えて」（104号より）

一調査現場で直面するちょっとした悩みや迷いに、考え方の一例を紹介

「マーケターの独りごと」(106号より)

ークライアントの普段感じることを紹介することでリサーチファームとクライアントの双方が取り組むべき、リサーチ課題解決のヒントを得るためのコーナー

「What They Say」(119号より)

ー号ごとにテーマを設定し、それに関する海外の議論の内容を紹介する。

「この3冊」(121号より)

ーマーケターやリサーチャーに関心をもたれる領域について、その習得に適切な3冊を新旧問わず紹介する。

「開眼の瞬間」(124号より)

ーマーケティング・リサーチ業界の歴史の一端を記録することと、読者である若いリサーチャーに様々なヒントを得ていただけるよう、業界を牽引されてこられた方々に、リサーチャーとしてのライフヒストリーを伺う。木戸茂氏(127号)、鈴木督久氏(128号)、高垣敦氏(129号)に登場いただいた。

「リサーチ用語探偵団」(127号より)

ー普段何気なく使っているが、類語と間際らしい、あるいは定義が曖昧なりサーチ用語に焦点をあて、解説を行う。

## (2) 『マーケティング・リサーチャー』のさらなるコンテンツの充実と質の向上

### 1) 読者フィードバック体制の継続

113号発行時から開設した読者アンケートサイト「読者の声“ご意見直通便”」において、2011年10月より読者アンケートモニターを設定し、様々な立場の読者より継続的に意見を聴取している。2015年度は、前年度に続きモニターの増強を行い、課題やアイデアを関連欄ごとにストックし、誌面作りに反映している。

### (3) 『マーケティング・リサーチャー』のさらなる浸透と新規読者の獲得

以下の各施策を進め、同誌のより一層の浸透を図るとともに、新たな読者の獲得を目指した。

#### 1) 発行案内のポスター配布による社内閲覧の促進活動

2014年度に続き、会員社の社内での閲覧が進むよう、本誌発行時にポスターを同封し、社内掲示等を促している。

#### 2) 「日経テレコン21」へのコンテンツ提供

2009年に「日経テレコン21」へのコンテンツ掲載を開始し、2015年度も掲載を継続した。2015年度中には、484件のダウンロードがあり、71,190円の収益となった。



## 6. 研修委員会

「統計分科会」、「定性分科会」、「トピックス分科会」、「集客分科会」の4分科会にわかれ、各講座あるいは集客施策を含めた研修事業の方向性について、問題点についての検討や改善点の抽出、新たなセミナー企画についての検討を続けた。

「統計分科会」では、2011年度に講師と検討を行い再編成したプログラムについて、5講座の位置づけをよりわかりやすくした。2013年度に新設した「質的データのマイニングのための対応分析法講座」を開催し、手法やレベルなど様々なニーズにこたえられるものとした。ただ、他社の統計・分析に関する講座やセミナーが安価、無料で開催されることが増え、集客には苦戦をしている。

「定性分科会」では、昨年度受講者のレベルやニーズ別に再編成したプログラムを引き続き開催をした。

「トピックス分科会」では、2011年度に新設した三木康夫先生による「マーケティングとマーケティング・リサーチセミナー」シリーズを開講。また、クライアントの社内での取り組みを理解する機会の提供として、「顧客データ分析」入門-1 顧客 1ID 化による CRM の基本を学ぶ-」を企画している。

「集客分科会」では、各講座の受講者や収支の状況を分析し、講座の案内方法のみならず、JMRA の研修事業としての方向性や具体的な施策案を提起した。具体的には、トピックスセミナーの開催や JMRA として開催する各種セミナーの統一性などについて提起し、前者は上記のように実現させた。また、集客のための Facebook 活用を継続させることで、セミナー参加者や JMRA ホームページ訪問者などへ、リアルタイムの情報を提供し続け、コネクションとしての役割を果たしている。

### グレー→2015年度開催しなかったセミナー

#### <平成 27 年度（2015 年度）に計画・実施した研修>（講師肩書は開催当時のものです。）

区分	No.	研修名	日時 日数	会場	講師	参加
総合	1	2015 年度新人リサーチャー合宿セミナー	2015/4/22～24 (2泊3日)	晴海グランドホテル	(注1)を参照ください。	正会員 3 社(4 名) 賛助法人会員 1 社(5 名) 賛助個人(1 名) 一般 12 社(16 名) 合計 26 名

	2	マーケティングとマーケティング・リサーチセミナー(総論編)	2015/10/20	JMRA 研修室	楽天リサーチ(株) 三木 康夫氏	正会員 4 社(9 名) 賛助法人会員 4 社(4 名) 一般 2 社(2 名) 合計 15 名
	3	マーケティングとマーケティング・リサーチセミナー(各論編 1)	2015/11/10,17 (2 日間)	JMRA 研修室	楽天リサーチ(株) 三木 康夫氏	正会員 3 社(7 名) 賛助法人会員 4 社(6 名) 一般 1 社(1 名) 合計 14 名
	4	マーケティングとマーケティング・リサーチセミナー(各論編 2)	2015/12/10,17 (2 日間)	JMRA 研修室	楽天リサーチ(株) 三木 康夫氏	正会員 2 社(7 名) 賛助法人会員 4 社(6 名) 合計 13 名
	5	仮説発見とインサイト生成に役立つワークショップの活用講座	2015/7/7	JMRA 研修室	JMRA 研修委員会	開催を見合わせた。
統計関連	6	はじめての方の統計分析講座	2014/6/13,27;7/4,11,18,24;8/1 (事前講義+6 日間)	JMRA 研修室	慶應義塾大学 総合政策学部教授 桑原 武夫氏	開催を見合わせた。
	7	探索発見的データ解析の基礎講座	2016/2/16,23; 3/1,8,15,22 (6 日間)	JMRA 研修室	統計数理研究所 名誉教授 大隅 昇氏	正会員 1 社(1 名) 賛助法人会員 1 社(2 名) 一般 7 社(8 名) 合計 11 名
	8	今からでも遅くない基礎統計学講座	2015/2/3,10,17,24; 3/3 (5 日間)	JMRA 研修室	統計数理研究所 名誉教授 大隅 昇氏	一般 8 社(11 名) 合計 11 名
	9	多変量解析の使い方入門講座	2016/2/1,2,8,9 (4 日間)	JMRA 研修室	筑波大学 人間系 教授 松井 豊氏	正会員 2 社(2 名) 賛助法人会員 2 社(2 名) 一般 4 社(4 名) 合計 8 名
	10	多変量解析の活用講座	2015/1/16,23,30; 2/6,13,27;3/6,13 (事前講義+7 日間)	JMRA 研修室	慶應義塾大学 総合政策学部教授 桑原 武夫氏	正会員 1 社(1 名) 賛助法人会員 2 社(2 名) 賛助個人(1 名) 一般 9 社(9 名) 合計 13 名
	11	質的データのマイニングのための対応分析法講座	2015/10/28;11/4,11,18 (3 日間+追加講義)	JMRA 研修室	統計数理研究所 名誉教授 大隅 昇氏	正会員 3 社(3 名) 賛助個人(1 名) 一般 4 社(4 名) 合計 8 名
定性調査	12	定性調査の基礎講座	2015/7/8,7/15,22, 29 (4 日間)	JMRA 研修室	フリーリサーチャー 肥田 安弥女氏 統計調査センター(株) 林 美和子氏	正会員 3 社(3 名) 賛助法人会員 6 社(10 名) 一般 1 社(1 名) 合計 14 名

	13	定性調査 企画力をつける実践講座	2014/10/1,2,8 (3日間)	JMRA 研修室	フリーリサーチャー 肥田 安弥女氏 統計調査センター(株) 林 美和子氏	正会員 2社(5名) 賛助法人会員 2社(3名) 一般 1社(1名) 合計 9名
	14	定性調査 分析を養う実践講座	2016/1/20,21,27 (3日間)	JMRA 研修室	フリーリサーチャー 肥田 安弥女氏 (株)カンター・ジャパン 中村 亜砂子氏	正会員 2社(3名) 賛助法人会員 1社(1名) 賛助個人(1名) 一般 5社(6名) 合計 11名
	15	定性調査 インタビュー実践講座	2015/11/25;12/2, 9 (3日間)	JMRA 研修室	統計調査センター(株) 林 美和子氏 (株)インテージ 赤塚 史恵氏	正会員 5社(11名) 賛助法人会員 2社(2名) 一般 4社(5名) 合計 18名
トピックス	16	第46回 JMRAトピックスセミナー 顧客データ分析入門	2016/2/24	JMRA 研修室	(株)スマートウィル 坂本 雅志氏	正会員 8社 (16名) 賛助法人会員 1社(1名) 一般 7社 (8名) 合計 25名
			合計	<今年度> (※トピックスセミナーを除く) 正会員 38社 (71名) 賛助法人会員 28社(42名) 賛助個人会員 (3名) 一般 48社 (56名) 合計 172名	<昨年度> (※トピックスセミナーを除く) 正会員 43社(60名) 賛助法人会員 48社 (54名) 賛助個人会員 (3名) 一般 86社(96名) 合計 213名	

(注1) (講演順 ※肩書は開催当時のものです。)

講師:統計調査センター株式会社 深野晴彦氏、楽天リサーチ株式会社 三木康夫氏、株式会社ジャパン・マーケティング・エージェンシー 後藤幹芳氏、統計調査センター株式会社 林美和子氏、フリーリサーチャー 肥田安弥女氏、株式会社電通マクロミルイント 渡邊瑞規氏、トヨタ部品神奈川共販株式会社 白戸潤氏、JMRA 賛助個人会員 渡部政喜氏、株式会社クロス・マーケティング 野口秀樹氏

JMRA 研修委員会委員:研修委員会担当理事-打田光代氏、研修委員会委員長-後藤幹芳氏、赤塚史恵氏、東美恵子氏、飯島眞也氏、香取一昭氏、菊池英範氏、國吉正章氏、佐々木亮輔氏、篠原幸彦氏、田中克彦氏、中村亜砂子氏、萩原雅之氏、増田一郎氏、森川弘康氏、山本五紀氏、渡部政喜氏

## 7. カンファレンス委員会

「2015年 JMRA アニュアル・カンファレンス実施概要」

<p>テーマ：「For ZERO 40 ゼロベース思考で明日を創る」</p> <p>日時：2015年11月26日（木）</p> <p>会場：ハイアットリージェンシー東京 B1F</p> <p>参加者数：合計621名（参加者498名、スタッフ・発表者／サポーター123名）</p> <p>スポンサー数：19社</p> <p>基調講演：「ゼロベース思考で明日を創る」－Self-Innovation－ 株式会社リアルディア 代表取締役社長 前刀 禎明 氏</p> <p>特別講演：フルスイングで到達した、2020年のコンパクトカー 株式会社アドヴィックス 取締役社長 小木曾 聡 氏</p>
---

地下一階のフロアーを全て使用して、3会場同時進行で実施した。

関連団体との連携コンテンツ、リサーチユーザーからの発表、JMRA 委員会連携コンテンツ、活用事例、学生向けコンテンツなど多彩なコンテンツの発表となった。

活用事例のベストプレゼンター賞には、株式会社インテージ 中野暁氏、田中由紀子氏の「シングルソースパネルデータにおける品質管理技法と発展的活用に関する考察」が選ばれた。

#### 「A 会場」

プログラム内容	発表者／発表タイトル
ご挨拶	JMRA 会長 牧田 孝
基調講演	「ゼロベース思考で明日を創る」 株式会社リアルディア 代表取締役社長 前刀 禎明 氏
	「ワークショップの魅力と可能性」 東京工業大学 教授 中野 民夫 氏
Marketing Research 2.0 プロジェクト	<p>(パネルディスカッション)</p> <p>日本コカ・コーラ株式会社 経営戦略本部 コンシューマー&amp;コマーシャルナレッジ&amp;インサイツ バイスプレジデント 大嶋 バニッサ 氏</p> <p>キリン株式会社 キリン食生活文化研究所 所長 太田 恵理子 氏</p> <p>株式会社トークアイ 代表取締役社長 ESOMAR 日本代表 佐野 良太 氏</p> <p>日産自動車株式会社 コーポレート市場情報統括本部 エキスパート・リーダー 高橋 直樹 氏</p>
	<p>(活用事例)</p> <p>日本コカ・コーラ株式会社 コマーシャル&amp;コンシューマーナレッジ&amp;インサイツ ヒューマン ファクターグループ グループマネージャー 山崎 恵理 氏</p>

	イブソス株式会社 リサーチアソシエイトディレクター 笈沼 滋 氏 キリン株式会社 ブランド戦略部リサーチ室 主務 行縄 修 氏
	「IoT、クラウドで実現するマーケティングのエコシステム ー消費行動の分析から個人が見えてくる！ー」 富士通株式会社 産業・流通システム事業本部ソリューション事業部 流通ソリューション部 シニアディレクター 大久保 龍一 氏
	「DMP による調査データのアクティベーション ～調査の真価が問われる時代へ～」 日産自動車株式会社 日本／アジア市場情報部 主坦 長岡 浩史 氏  株式会社カンター・ジャパン デジタルソリューション ディレクター 関井 利光 氏

「B 会場」

(国際委員会／活用事例／出版委員会) 発表

プログラム内容	発表者／発表タイトル
JMRA 国際委員会	「THINK GLOBAL!」 司会：株式会社フィスコ リサーチレポーター 飯村 真由 氏  株式会社クロス・マーケティンググループ 代表取締役社長 五十嵐 幹 氏  楽天リサーチ株式会社 代表取締役社長 森 学 氏  GMO リサーチ株式会社 代表取締役社長 細川 慎一 氏  ESOMAR Chairman, Asia Pacific, Latin America, Middle East & Africa John Smurthwaite 氏
活用事例①	「ランダム・インターセプト (RDIT) による 日本のインターネット利用の実態と今後のリサーチの可能性」 株式会社クロス・マーケティンググループ 岸田 典子 氏
活用事例②	「シングルソースパネルデータにおける品質管理技法と 発展的活用に関する考察」 株式会社インテージ 中野 暁 氏／田中 由紀子 氏
活用事例③	「『回答確信率』～消費者の意識評価の迷いを把握する 感性分析を使った新手法」 GMO リサーチ株式会社 工藤 公久 氏
JMRA 出版委員会	『出版委員会 40 周年記念誌連動企画 「これからのマーケティング・リサーチの可能性」』 株式会社ロフトワーク イノベーションメーカー 棚橋 弘季 氏 株式会社ビデオリサーチ リサーチ・プランナー 小木 真 氏 株式会社レアソン リサーチ&コンサルティンググループ シニア・アナリスト 古賀 由希子 氏

「クリスタル」学生向けコンテンツ

プログラム内容	発表者／発表タイトル
「マーケティング・リサーチ業界」体験型説明会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティング・リサーチ業界と仕事の紹介</li> <li>・グループワーク（データを見る目線）</li> </ul> 講師 イプソス株式会社 山崎 慶 株式会社インテージ 高橋 直武 株式会社インデックス・アイ 小田宜夫 株式会社電通マクロミルインサイト 渡邊 瑞規 サポーター イプソス株式会社 豊若 えり夏 株式会社インテージ 中村 望美、早川 誠、 株式会社クロス・マーケティング 黒田 香菜 GMOリサーチ株式会社 廣田 正史

「桃山」

プログラム内容	発表者／発表タイトル
特別講演	「フルスイングで到達した、2020年のコンパクトカー」 株式会社アドヴィックス 取締役社長 小木曾 聡 氏
ご挨拶	JMRA カンファレンス委員会担当理事 小西 克己

## 8. 調査技術研究委員会

マーケティング・リサーチ技術の開発研究、新たな技法や今日的な問題を取り上げ、その活用や問題解決の方向を探り、業界内外に情報発信を行いマーケティング・リサーチ業界の地位向上を図ることを目的に、2年サイクルでテーマを設定し研究を進めている。本年度は以下の新たな3テーマを設定し、研究活動を開始した。

### （1）予測市場のリサーチ応用研究

選挙、株、競馬などにおいて研究が進む「予測市場」の考え方を参考に、「マーケティング・リサーチの実施方法を工夫することで、市場予測の精度をあげるための実証研究。本年度は、菓子と映画をテーマにウェブ定量調査の設計・実施を行った。来年度は当調査結果の分析並びに追加検証を予定している。

### （2）若年層のパネル枯渇問題に対する研究

リサーチ会社各社が近年抱える問題である若年層のモニター登録率やアンケート協力率の低下に対し、その要因分析や改善の余地を探るための研究。本年度は若年層を対象にアンケートに対する意識を直接確認するためのウェブ調査を実施した。来年度は当調査結果の分析並びに追加検証を予定している。

### (3) ウェアラブルデバイスによるビッグデータの先進的事例研究

昨年度行ったリサーチャー調査において関心の高かった「ウェアラブルデバイスの活用」と「ビッグデータ分析」をテーマに、現状の活用方法を情報整理するとともに先進的な取り組みの事例研究を目的とする。本年度は様々な先進的事例を書籍、論文、展示会、有識者ヒアリングなどにより情報収集した。来年度は情報を体系的にまとめるとともに、注目すべきリサーチへの応用事例を模索する。

## 9. 国際委員会

2015年度の国際委員会は、「海外情報の収集と発信」、「若手リサーチャーの国際化への取り組み」、「海外の協会との情報交流」に関して活動した。

### (1) 「海外情報の収集と発信」

国際委員において収集した海外情報を、協会ホームページにて公開した。また、ソーシャルメディアを使用してテスト的に日本の情報を発信した。

### (2) 「若手リサーチャーの国際化への取り組み」として国際若手フォーラムの実施

開催日	会社名	部署/役職	お名前	タイトル
7/16 (水)	カーター・グループ	代表取締役社長	Dominic Carter 氏	Using culture to create breakthroughs with consumers
9/29 (火)	フリーランス	プロフェッショナル・モデレーター (リサーチャー)	吉田朋子 氏	「堂々と、世界に向かって声をあげよう。」～はじめてのグローバルカンフェレンス登壇で得た体験と今の思いのおすそ分け～
10/30 (金)	GMO チャイナコンシェルジュ株式会社	C.E.O	大西 正也 氏	「中国 13 億人」を一括にされないマーケティング

### (3) 海外の協会との情報交流

#### 1) ESOMAR への情報発信

内田副会長が ESOMAR APAC の Program Committee のメンバーとなり、ESOMAR APAC の発表内容について、日本としての意見をあげた。

#### 2) APRC/GRBN への情報発信

国際委員が APRC Summit Meeting に参加し、情報収集とともに APRC/GRBN の活動に対する意見をあげた。

## 10. 人材マネジメント研究会

今年度は、人材マネジメント研究会となり、広い視野をもって職場を見直すことを第一に考え、再スタートいたしました。(委員数23名(参加社数15社・個人会員1名))

テーマを「従業員満足(ES)・キャリア」「採用・育成」「職場環境」と人材マネジメント全般に広げ、テーマ毎に分かれたグループ(分科会)が事例などを発表の上、参加者全員で議論を行いました。

(1) 研究会内で、ES・キャリアグループ・採用・育成グループ・職場環境グループと3つの分科会を設け、月ごとにテーマを設け、講演・事例紹介・議論を行った。

- |     |  |
|-----|--|
| 10月 | <p>ES・キャリアグループ</p> <p>各社のES調査の実態と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例共有 (質疑応答含む)</li> <li>・議論</li> <li>・議論結果発表</li> </ul>   |
| 11月 | <p>採用・育成グループ</p> <p>採用プロセスの実態、成功事例、失敗事例共有</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価ポイント (採用基準)</li> <li>・アセスメント (SPI)</li> <li>・面接スクリプト採用計画の立て方</li> <li>・要件と現実のギャップが大きい場合の対策</li> <li>・エントリーから内定通知までのスピード化</li> <li>・採用システム</li> </ul> |
| 12月 | <p>職場環境グループ</p> <p>労務管理の実態についての事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・労働時間関連</li> <li>・36協定</li> <li>・その他</li> </ul>   |
| 1月  | <p>ES・キャリアグループ</p> <p>キャリアの理解と各社現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア制度について</li> <li>ヒアリング結果とまとめ共有</li> <li>・講習会 キャリア勉強会</li> <li>産業カウンセラー 吉田 千晶氏</li> </ul>   |
| 2月  | <p>採用・育成グループ</p> <p>360度サーベイ&amp;マネジメント研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メンバー社において実際に行われたマネジメント研修を企画運営社</li> </ul>  |



講習会 研修そのものの本質的な理解とアドバイス  
 (株)フィールドマネジメント・ヒューマンリソース

代表取締役社長 小林 傑氏

- ・実際に導入した事業社より 360 度サーベイの詳細
- ・実際に導入した事業社より導入ノウハウについての講義

3月 職場環境グループ

育児、介護・シニア活用・女性活躍についての事例

## (2) 会員社向け講演会の開催

・ 4月14日(木) 15時~17時 協会会議室にて

【HRの使命】田下 憲雄氏

元 株式会社インテージ 代表取締役社長

元 JMRA 会長

参加人数 17社26名

## 11. プライバシーマーク審査会

審査業務の実施

今期のプライバシーマークの新規取得、更新申請をおこなった正会員社については、とどこおりなく書類審査および現地審査を行い、プライバシーマーク審査会に報告し、可否の手続きを行った。(更新：46社、新規取得：2社 合計：48社)

2015年度のプライバシーマーク取得社は、取得社の退会、合併により、正会員社129社中104社となった。

月別のプライバシーマーク審査会における付与適格決定事業者数は次の通りである。

第122回	2016年	3月25日	付与適格決定事業者数：2社(更新2社、新規0社)
第121回	2016年	2月26日	付与適格決定事業者数：5社(更新4社、新規1社)
第120回	2015年	1月22日	付与適格決定事業者数：3社(更新3社、新規0社)
第119回	2015年	12月18日	付与適格決定事業者数：2社(更新2社、新規0社)
第118回	2015年	11月27日	付与適格決定事業者数：6社(更新6社、新規0社)
第117回	2015年	10月23日	付与適格決定事業者数：3社(更新3社、新規0社)
第116回	2015年	9月25日	付与適格決定事業者数：7社(更新7社、新規0社)
第115回	2015年	8月21日	付与適格決定事業者数：2社(更新2社、新規0社)
第114回	2015年	7月24日	付与適格決定事業者数：2社(更新2社、新規0社)
第113回	2015年	6月26日	付与適格決定事業者数：6社(更新6社、新規0社)
第112回	2015年	5月22日	付与適格決定事業者数：4社(更新3社、新規1社)

第 111 回 2015 年 4 月 24 日 付与適格決定事業者数：6 社（更新 6 社、新規 0 社）  
 審査会実施回数：12 回 付与適格決定事業者数：48 社（更新 46 社、新規 2 社）

#### 事業者向け講習会の実施

審査業務部主催にて、プライバシーマーク審査講習会「具体例を示しながらの規定整備」を行った。

日時 2015 年 12 月 28 日、31 日（2 日間）各 13 時 30 分～15 時 30 分

講師 JMRA プライバシーマーク主任審査員 千田 英博氏、桑原 圭吾氏

参加人数 34 社 45 名、審査会委員・審査員 4 名

### Ⅲ. 事務局の活動報告

#### 1. 協会の会務

- (1) 定時総会 「5 月 28 日」
- (2) 理事会 「5 月 28 日、6 月 18 日、7 月 23 日、9 月 24 日、11 月 12 日、  
2016 年 1 月 28 日、3 月 24 日」
- (3) 運営委員会「8 月 27 日、10 月 19 日、2016 年 2 月 25 日」

#### 2. 他団体との活動

##### (1) 国内他団体との活動

経済産業省をはじめ、他関連団体との情報交流を次のように行った。

- ・経済産業省人権セミナーに渡部事務局長が参加（8 月 4 日）
- ・大阪府人権室と情報交換を行い人権ポスターなどのアナウンスを会員社に向けて実施した。
- ・統計大会（11 月 19 日）に渡部事務局長が参加し、情報収集、情報交換を行った。
- ・JMRA アニュアル・カンファレンスにて、マーケティング協会と連携したコンテンツを発表した。
- ・個人情報の保護と利活用を考えるシンポジウムに渡部事務局長、水草事務局員、上杉事務局員が参加（2016 年 2 月 29 日）

##### (2) 海外他団体との活動

APRC (Asia Pacific Research Committee) 加盟国、GRBN (Global Research Business Network)、ESOMAR、ISO 国際事務局との情報交流を行った。

### 3. 事務局活動

(1) 個人情報保護マネジメントシステム（以下 PMS）の運用継続

プライバシーマーク指定審査機関として、プライバシーマークと同等のマネジメントシステムの運用を継続している。

(2) マーケティング・リサーチに関する内外関係機関等との交流および協力

1) 会員社懇親会

通常総会終了後に開催した。

日 時：2015 年 5 月 28 日（木）

会 場：ハイアットリージェンシー東京 地下 1 階

参加者人数：約 150 名（理事、委員、事務局を含む）

2) 広告界賀詞交換会

2016 年 1 月 6 日、帝国ホテルにおいて、マーケティング関連団体 30 団体共催の「広告界賀詞交換会」が約 1,700 名の参加を得て、開催された。なお、当協会から、会員社 4 社（9 名）が参加した。

(3) 第 40 回 経營業務実態調査の実施

・実 施：2015 年 4 月 1 日～6 月 10 日

・回 収 率：80.2%（126 社中 102 社回収）

(4) 協会発行物の作成

1) 2016 年版リサーチャーズ手帳の発行

913 冊 発行

2) 正会員社証明書・調査員証明書の発行

57 社 822 枚 発行

3) 会場テスト用証明書の発行

16 社 1,229 枚 発行

4) 手提げ袋の販売

14 社 15,400 枚 販売

5) マーケティング・リサーチ綱領の配布

89 冊 配布

(5) マーケティング・リサーチに関する苦情の処理

2015 年度（2015 年 4 月 1 日から 2016 年 3 月 31 日の間）、マーケティング・リサーチに関する問い合わせ件数は 11 件であった。

1) 問い合わせ元の内訳

消費者団体	2名
対象者	7名
その他	2名

2) 問い合わせの内容 (合計20件)

1.	JMRA 会員社名に酷似した会社に連絡先を教えて不安	3件
2.	調査を語ったなりすましではないか	3件
3.	調査協力予定の調査会社連絡先を失念したので連絡先を教えてほしい	3件
4.	調査依頼されたが、きちんとした会社なのか	2件
5.	個人情報目的外使用されないか不安	2件
6.	JMRA 会員社名に酷似した会社に登録したがクレジットカード契約する内容が含まれているので不安を感じた	1件
7.	JMRA 会員社名をかたった会社から携帯電話を契約させられた	1件
8.	謝礼金とはどういったものか	1件
9.	謝礼金をもらって大丈夫か	1件
10.	調査員が不正に対象者や調査票を操作しているので JMRA に伝えたい	1件
11.	調査員の身分証提示がなく不信感	1件
12.	調査依頼されたが断りたい	1件

(6) 会員の動向

正会員社

入会 2社

退会 5社

これにより 2016 年 3 月 31 日現在、正会員社総数 124 社

賛助法人会員

入会 5社

退会 5社

これにより 2016 年 3 月 31 日現在、賛助法人会員社総数 89 社

賛助個人会員

入会 7名

退会 17名

これにより 2016 年 3 月 31 日現在、賛助個人会員者総数 116 名

(7) 一般企業からの問合せに対し、専門調査会社（正会員社）紹介 9件

(8) 関連官庁からのメール連絡 送信 17件

以下 余白

